東　俣　野　7月号
東俣野小学校　学校だより　　令和３年６月３０日

夏の思い出

副校長　大山　高幸

６月 21 日（月）プール開きの式が行われました。昨年はコロナ禍の影響で全くできなかった水泳学習ですが、今年は各学年２回と少ない回数ながら、消毒の徹底、密を防ぐための場の工夫、声を出さないなど、感染防止に細心の注意を払い授業を行います。

さて、この時期になると、水泳学習と重なった一つの思い出がよみがえってきます。私は生まれも育ちも横浜で、通っていた小学校は水泳指導に大変熱心でした。私が小学校 5 年生だったと思いますが、ある日の朝会で、校長先生から「今度、水泳学習に古橋さんがお見えになります」とお話がありました。

古橋さんとは今から約７０年前、敗戦で打ちひしがれた日本人に希望と誇りを与えた水泳の古橋広之進（ふるはしひろのしん）選手のことです。当時、体格ではるかに勝る海外の選手を相手に、何度も自由形の世界新記録を樹立し、その圧倒的な強さに海外の人たちから「フジヤマのトビウオ」と畏敬の念を込めて呼ばれた人です。1948 年のロンドンオリンピック、出場すれば金メダル間違いなしと言われた古橋選手でしたが、戦争が終わったばかりで日本の参加は認められませんでした。そこで、日本水泳連盟はオリンピック決勝の日に敢えて全日本水泳選手権を開催、古橋選手の出した 400 メートル自由形、1500 メートル自由形のタイムはロンドンオリンピック金メダリストのタイムよりも、そして当時の世界記録よりも速かったのです。

子どもながらにその偉大さから名前は知っていました。すでに選手生活を終えかなりの時間が経っていましたが、どういうつながりがあったのかわかりませんが、学校に来て泳法指導をしてくれることになったのです。今でもはっきり覚えているのは、当日、校長先生をはじめ先生たちの緊張した様子と、プールを取り囲んだ保護者からの「ふるはしだ」「ふるはしだ」と興奮気味の声です。当時の大人たちにとって「フジヤマのトビウオ」はまさにヒーロー的な存在だったのしょう。

その泳ぎは一言、「静かで美しい」ものでした。音もなく、水しぶきも上がらず飛び込んだかと思うと、水面をすべるように進む姿が脳裏に焼き付いています。

それから十数年後、教師になり、夏の水泳学習を行う時、いつも思い出す情景です。